

平成28年度「とちぎっ子学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立御幸が原小学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や児童の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって児童を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、平成28年度「とちぎっ子学習状況調査」における本校児童の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

本県児童生徒の学力や学習の状況等を把握・分析し、児童生徒一人一人の課題を明確にするとともに、各学校が組織的に学習指導における検証改善サイクルの構築・運用に取り組むことにより、本県児童生徒の学力向上に資する。

2 調査期日

平成28年4月19日(火)

3 調査対象

小学校 第4学年、第5学年（国語、算数、理科、質問紙）

中学校 第2学年（国語、社会、数学、理科、英語、質問紙）

4 本校の実施状況

第4学年	国語	93人	算数	93人	理科	93人
第5学年	国語	84人	算数	84人	理科	85人

5 留意事項

- (1) 本調査は、対象となる学年、実施教科が限られていることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、児童が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。

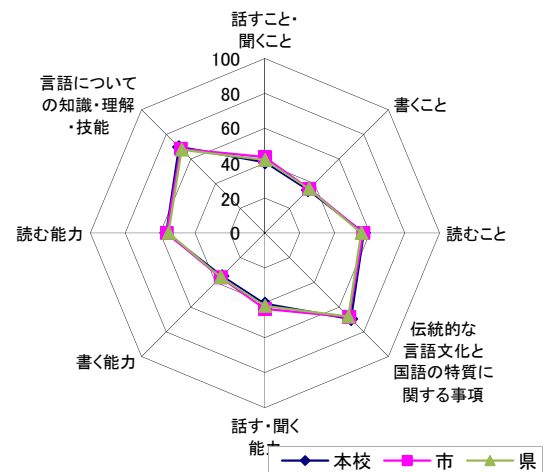
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。

- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立御幸が原小学校 第4学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	話すこと・聞くこと	40.5	43.5	41.8
	書くこと	34.8	35.9	35.8
	読むこと	56.6	56.3	55.2
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	69.7	68.2	67.5
観点	話す・聞く能力	40.5	43.5	41.8
	書く能力	34.8	35.9	35.8
	読む能力	56.6	56.3	55.2
	言語についての知識・理解・技能	69.7	68.2	67.5



★指導の工夫と改善

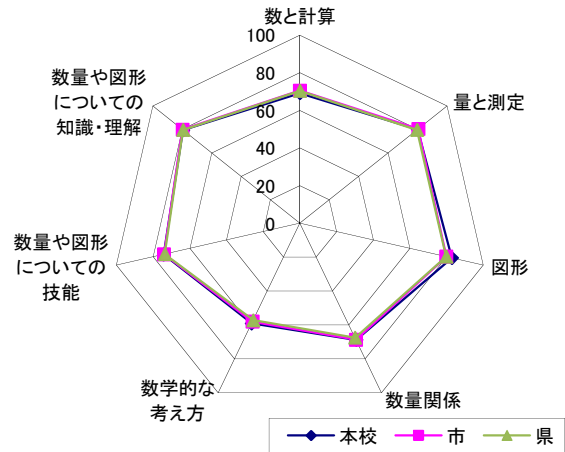
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
話すこと・聞くこと	●領域の平均正答率は40.5%で、県・市の平均点をやや下回っている。 ●話の中心に気を付けて聞き、意見を述べる設問の正答率は45.2%で、これは県の平均を6.2ポイント下回っている。	・ただ相手の話を聞くのではなく、相手の話の意図を読み取り、話の中で何が重要なのか考えながら聞き、さらにそれにつながる自分の考えをもつ練習が必要である。学習や生活のいろいろな場面において、意図的に仕組んでいく。 ・授業中における発表の仕方の定着や、ペア、グループでの話し合い活動の場を設定し指導する。
書くこと	●領域の平均正答率は34.8%で、4領域の中で最も低く、県・市の平均点を下回っている。 ●招待状に入れる2つの内容を1つの文にまとめて記述する設問では、正答率が23.7%で、県の平均を10.3ポイント下回った。14.0%の児童が無回答であった。	・日頃から、日記や作文など文章を書いて自分の考えをまとめる学習を積み重ね、文を書くことの苦手意識をなくしていく必要がある。また、目的に応じた文章の書き方や文章構成の仕方など基本的な知識をおさえて指導していく。今回、時間内に考えがまとまらず、書き終えることのできない児童もいたので、時間内に必要な文字数を書くという練習も取り入れていきたい。
読むこと	○領域の平均正答率は56.6%で、県・市の平均点をわずかに上回った。 ○物語文では、「叙述を基に、登場人物の気持ちを想像して読む。」「登場人物同士の関係や物語上での役割を捉える。」設問では、市や県の平均を2～3ポイント上回った。	・説明文では、段落や場面の中で大切な言葉をとらえながら、接続語、指示後に注目させて、段落と段落とのつながりや構成を考えていく読み方の指導をし、説明文の読み取り方の定着を図る。
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	○領域の平均正答率は69.7%で、市や県の平均をわずかに上回った。 ●漢字では、「平等」(読み)、「遠足」(書き)が県の平均を10ポイント程上回ったが、「薬局」(読み)、「弟」(書き)、「茶」(書き)は県の平均をわずかに下回った。 ●国語辞典の使い方を問う設問の正答率は、60.2%で、これは県の平均を5.5ポイント下回っている。	・日頃から、文章の中で主語と述語を小まめに確認し、演習問題に取り組むなど繰り返し復習をすることで定着を図りたい。また、ローマ字による書き方を理解していない児童が多いので、国語の授業に限らず、パソコンを使用して調べ学習をする時間などを通して、実際に活用しながら定着を図りたい。 ・国語辞典を日常的に慣れ親しむ習慣化を図り、言葉が適切に理解・活用できる能力を高める。

宇都宮市立御幸が原小学校 第4学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と計算	69.2	70.5	70.3
	量と測定	80.0	80.4	79.6
	図形	82.8	79.8	79.7
	数量関係	68.8	68.7	67.5
観点	数学的な考え方	59.1	58.0	57.2
	数量や図形についての技能	74.3	74.1	73.7
	数量や図形についての知識・理解	79.4	79.9	79.5



★指導の工夫と改善

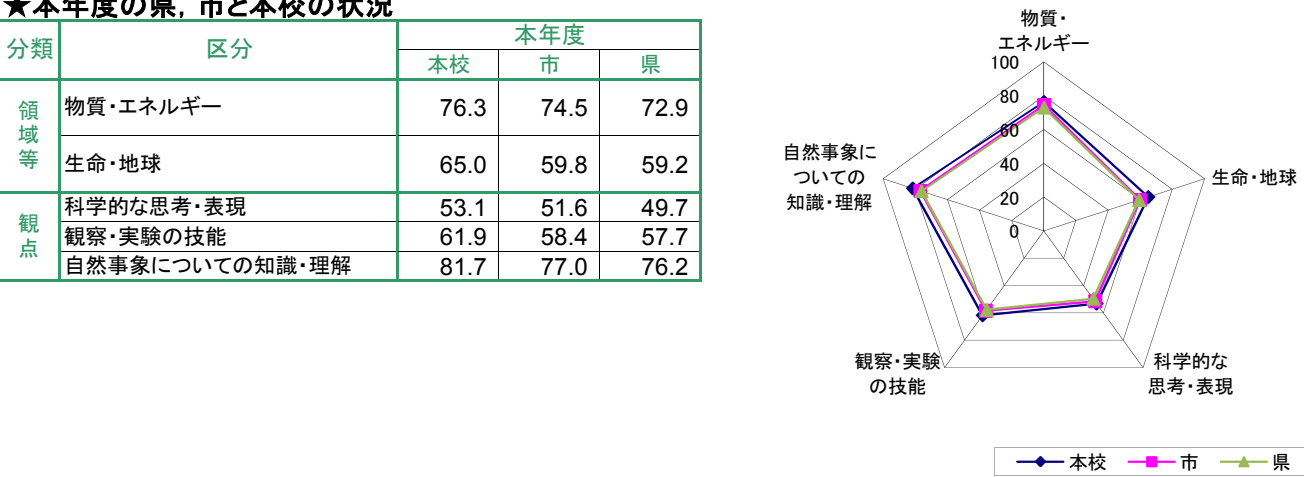
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	●領域の平均正答率は69.2%で、県・市の平均をわずかに下回っている。 ●特に、3位数×2位数=4位数、整数÷小数=小数(1/10)の正答率は、それぞれ53.8%、63.3%で、県の平均値より5ポイント以上下回った。 ●数直線の見取りを読み取り、分数で表す問題の正答率は35.5%で市や県の平均を10ポイント以上、下回った。	・朝の計算練習やドリル等を活用し、できるだけ多くの問題を解いて繰り返し練習して、定着を図る。また、個別につまずいている計算を見つけ、計算の仕方を指導する。 ・分数の意味を再確認し、全体を1としたとき、いくつに分かれているかが分母、そのいくつが分子になることの理解を徹底させる。
量と測定	○領域の平均正答率は80.0%で、県・市の平均とほぼ同じである。 ○kmで表された長さをmに換算する問題の正答率は93.5%で県の平均を6.8ポイント上回った。 ●およそ1kgのものを選ぶ問題は、正答率が67.7%で、市の平均を6.0ポイント下回った。	・重さの学習では、身近な物の重さについて予想を立ててから、実際に図ることを繰り返ししながら、量感を掴ませていくことを機会をとらえて指導する。
図形	○領域の平均正答率は82.8%で、県・市の平均を3ポイント程上回った。 ○与えられた1つの辺の続きを描いて正三角形を完成させる問題は正答率が円と球の設問の正答率は90.3%で、県の平均を7.4ポイント上回った。 ○半径3cmのボールが縦に3つ入った筒の高さを求める問題の正答率は市や県の平均を5ポイント以上上回った。	・用語の定義を十分に理解させたうえで、基本的な算数用語を使って説明をするように促したり、ノートにまとめさせたりすることを意図的に指導する。
数量関係	○領域の平均正答率は68.8%で、ほぼ県・市の平均に達している。 ○「連続量の等分除の問題場面を表す線分図を完成する」、「合計料金から乗船したコースを判断し、その理由をかく」問題は、県の平均を5ポイント程度上回った。 ●除法について、余りを適切に処理し、その理由をかく設問では、商に1をプラスすることは分かっているが、その理由をどのように説明したらよいか戸惑いが見られた。	・問題場面を図に表す学習活動を意図的に行っていく。その際、児童のかいた図や式を採りあげ、図をかいた児童が説明する活動するだけでなく、聞いていた児童がどんな理解をしたのか、双方向で学習を進める場面を設定する。

宇都宮市立御幸が原小学校 第4学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	物質・エネルギー	76.3	74.5	72.9
	生命・地球	65.0	59.8	59.2
観点	科学的な思考・表現	53.1	51.6	49.7
	観察・実験の技能	61.9	58.4	57.7
	自然事象についての知識・理解	81.7	77.0	76.2



★指導の工夫と改善

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の改善
物質・エネルギー	○領域における平均正答率は、76.3%で、県・市の平均を上回った。 ○「磁石の異極は引き合い、同極は退け合うこと」の問題は正答率が81.7%、「磁石につけると磁石になる物があること」の設問が82.8%で、県の平均を10ポイント上回った。 ●「反射させた光を重ねたときの明るさの違いが分かる」「物は形が変わっても重さが変わらないことが分かる」ことを問う問題の正答率は、県平均をわずかに下回った。 ●「豆電球のつき方から箱の中の回路の様子を推測する。」(45.2%)、「銅の性質をもとに分類し、その理由を説明する。」(25.8%)と正答率が50%を切る設問もあった。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ○理科の学習の基本的な流れである、学習の課題を立て、予想をし、実験・観察による結果、結果からわかることをまとめる考察という展開をしっかりと授業で行っていく必要がある。特に、考察することに重点を置き、科学的な思考を高めていく。 ・各授業では、「めあて」「実験・観察」「まとめ」「振り返り」のサイクルに従って授業を繰り返す、児童の身につくように指導する。
生命・地球	○領域における平均正答率は、65.0%で、県・市の平均を5ポイント程上回っている。 ○次の4問題「チョウの幼虫と成虫の口の様子が違う理由が分かる。」「昆虫が卵をうむ場所と食べ物とを関係付けて考察する。」「方位磁針の適切な操作方法が分かる。」「温度計の目盛りを正しく読み取る。」については、県の平均を10ポイント以上、上回る結果である。 ●「虫眼鏡の正しい使い方が分かる。」「場所と見つけた昆虫の数のグラフをもとに考察する。」の2問は、県の平均を5ポイント程度下回った。 ●「観察記録をもとに昆虫を選択し、その理由を説明する。」「日陰の位置の変化と植物の成長を関係付けて考察する。」は記述式の問題だが、正答率はそれぞれ、30.1%、12.9%であった。	○理科の器具の正しい使い方について、なぜそのような使い方がよいのか、児童に理解させながら指導する。 ・理科においても、全体として、事実を結びつけながら、相手に分かりやすい説明や記述が苦手な面が浮き彫りとなった。授業や日常生活において、よく聞き、分かりやすく説明できる能力を高めていく。

宇都宮市立御幸が原小学校 第4学年児童質問紙調査

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○アンケート全83項目の内、肯定的回答の割合が90%を超えた内容は、「自分は家族の大切な一員だと思う。」「毎日、朝食を食べている。」「学校の宿題は、自分のためになっている。」「人と話すことは楽しい。」「家で、学校の宿題をしている。」「次の教科などの学習は、将来のために大切だと思いますか。国語・社会・算数・総合的な学習の時間」の9項目(4教科)であった。

●逆に、肯定的回答の割合が50%を切った項目は、「自分はクラスの人の役に立っていると思う。」「自分は勉強がよくできる方だと思う。」「本やインターネットなどを利用して、勉強に関する情報を得ている。」「友達の前で自分の考えや意見を発表することは得意である。」「家で、学校の授業の予習をしている。」「家で、学校の授業の復習をしている。」「漢字の読み方や言葉の意味が分からないときは、辞書を使って調べている。」「分からない国名や地名があったら、インターネットや地図帳などを使って調べている。」の8項目であった。

○県の平均値との比較において、肯定的回答の割合が高かった項目(90%以上を除く)は、「先生は学習のことについてほめてくれる。」「(+5. 6ポイント)」「授業で扱うノートには、学習の目標(めあて・ねらい)とまとめを書いている。」「(+10. 3ポイント)」「次の教科の問題を解く時間は十分でしたか。理科」(+5. 4ポイント)の3項目であった。

●県の平均値との比較において、肯定的回答の割合が10ポイント以上低かった項目(50%以下を除く)は、「自分には、よいところがあると思う。」「(-10. 5ポイント)」「本やインターネットなどを利用して、勉強に関する情報を得ている。」「(-18. 1ポイント)」「友達の前で自分の考えや意見を発表することは得意である。」「(-22. 7%)」「難しいことでも、失敗を恐れずに挑戦している。」「(-11. 6ポイント)」「授業では、クラスの友達との間で話し合う活動をよく行っている。」「(-11. 1ポイント)」「クラスの友達との間で、話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている。」「(-14. 8%)」「家で、学校の授業の復習をしている。」「(-16. 9%)」「漢字の読み方や言葉の意味が分からないときは、辞書を使って調べている。」「(-20. 3%)」「分からない国名や地名があったら、インターネットや地図帳などを使って調べている。」「(-15. 4ポイント)」「自然や宇宙など、科学の内容を扱っているテレビを見たり本を読んだりするのは好きだ。」「(-10. 0ポイント)」「理科の授業で学習したことをふだんの生活の中で活用できないか考えている。」「(-10. 3ポイント)の11項目で、やや多めであった。

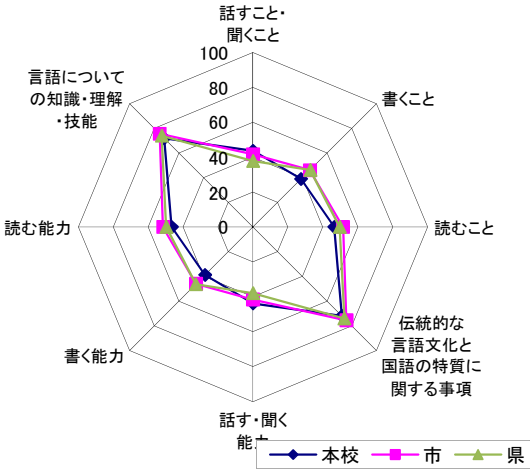
今後の指導の重点

- ・学校においても、総合的な学習の時間などに本やインターネットを利用して一人調べのできる時間を設け、また、発表の機会をつくり、調べる意欲・発表する意欲を養う。
- ・発表することに苦手意識をもっている児童もいるので、簡単なことでも人前で話す機会をつくったり、話した友達に対して温かい反応ができるように学級経営に力を入れ、話し合いを通して自分の考えを深めたり、広げたりできるようにする。
- ・授業中ではもとより、教育的意図をもって、日常から自然や科学のこと、外国など他の土地のことに目を向けられるように配慮する。
- ・漢字の読み方や言葉の意味が分からない時には進んで辞書を引き、問題意識をもち、解決していけるように指導する。

宇都宮市立御幸が原小学校 第5学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	話すこと・聞くこと	43.7	41.6	37.9
	書くこと	38.9	46.1	46.3
	読むこと	46.6	51.6	49.7
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	72.0	75.6	74.0
観点	話す・聞く能力	43.7	41.6	37.9
	書く能力	38.9	46.1	46.3
	読む能力	46.6	51.6	49.7
	言語についての知識・理解・技能	72.0	75.6	74.0



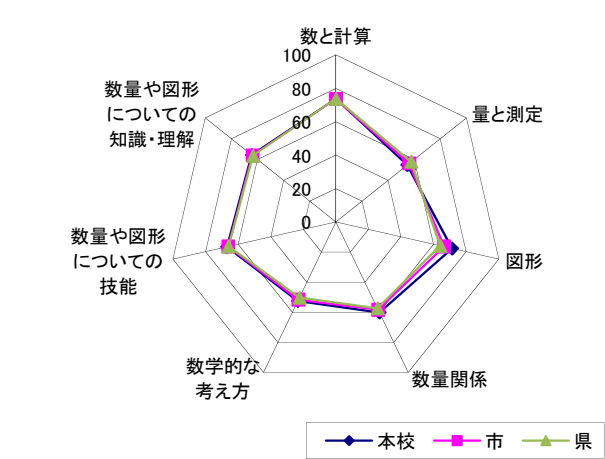
★指導の工夫と改善

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
話すこと・聞くこと	○提案者の役割を理解し話し合いに参加したり、司会者の役割を理解し話し合いに参加するなど、基礎的な話し合いの進め方はおおむね理解している。 ●話し合いの内容を聞き取ることはできても、互いの考えの共通点や相違点を整理して表現する力は定着していない。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・話を聞くことはできるが、話し手の意図を理解し、話の内容を十分に理解することが苦手な児童が多い傾向にある。朝の会や帰りの会など日常的に短い時間の中で、教師や友だちの話を聞く時間を設け、内容を理解しながら聞く習慣化を図っていきたい。
書くこと	●必要な情報を読み取り、学級新聞の見出しを選択したり、必要に応じて与えられたテーマに対する記事を、一定の条件にあてはめながら文章で表現する力が定着していない。県の平均を大きく下回っている。無回答の割合も12%を越えている。	・日々の生活の中で、繰り返し継続的に書く習慣をつけさせる必要がある。テーマを与えたり、条件を決めたりしながら、朝の会のスピーチやミニ日記など、文章を書く活動を積極的に取り入れ、書く練習を増やすことで力をつけていきたい。
読むこと	○説明文では、段落相互の関係をとらえて読んだり、中心となる語をとらえて読んだりする力が低かった。物語文では、叙述をもとに、登場人物の気持ちを想像して読む設問に対し、平均点が市や県を下回った。 ○目的に応じて文章を要約することを問う問題は、市や県の平均を上回っていた。	・読書量の個人差が大きい。朝の学習等で読書の時間を確保し、学年の発達段階に合った本をすすめるとともに、図書室を積極的に活用していく。 ・説明文では、段落どうしのつながりを意識できるような指導を心がけ、継続的に意識しながら読めるよう指導していく。
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	○漢字の学習については、3・4年生の漢字の読みについては県の平均を上回っており定着していると思われる。また、慣用句の使い方についても、理解している児童が多くみられる。 ●読むことに比べ、漢字を書くことでのつまづきが目立った。3・4年生の漢字で県の平均を大きく下回っていた。また、漢字辞典の使い方の理解が51.7%と低かった。	・書く活動の際には、既習の漢字を積極的に使うように指導する。 ・分からない漢字や言葉の意味等は辞書を進んで活用し、漢字辞典に慣れ親しませる。 ・補助教材を活用し、繰り返し漢字の練習をするとともに、ミニテスト等を多く取り入れ定着を図る。

宇都宮市立御幸が原小学校 第5学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と計算	73.8	73.6	73.7
	量と測定	54.8	56.2	57.7
	図形	71.4	66.5	64.2
	数量関係	60.2	58.4	57.5
観点	数学的な考え方	52.5	51.7	50.3
	数量や図形についての技能	66.9	66.1	65.9
	数量や図形についての知識・理解	64.4	64.0	63.5



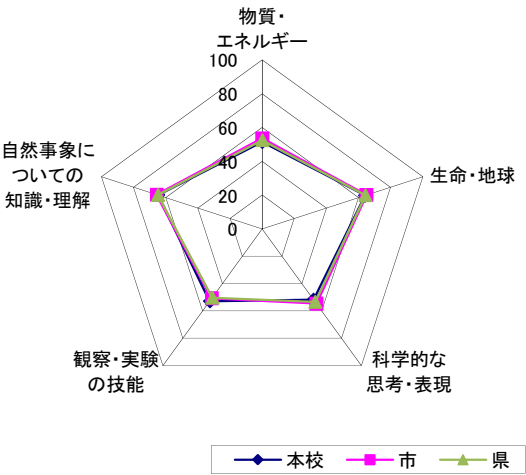
★指導の工夫と改善

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	○全体的に市の平均並みの正答率である。 ○小数(小数第2位)－小数(小数第1位)の計算は、正答率が86.9%で、市の平均を6.3ポイント上回った。 ●3位数÷2位数＝2位数(余りあり、商に空位あり)の計算は正答率が65.5%であるが、これは市の平均を6.0ポイント下回っている。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・基本的な計算はよく身に付いているが、少し難しくなると正答率が下がってしまう傾向にあるので、算数の苦手な児童を中心に今後もT.Tや習熟度別学習を生かし、個別指導を中心に指導の強化を図っていく。 ・朝のチャレンジタイムだけではなく、宿題でも計算の練習を行わせ、定着を図っていくようにする。
量と測定	○長方形の面積を求める問題や身近にあるものの面積を推察する問題は概ね理解している。 ●1㎡の正方形の面積をcm ² 単位で表す問題は、正答率が33.3%で、県の平均を12.6ポイント下回った。	・面積のm ² とcm ² の単位の理解に当たっては、単位の形式的な操作の指導でなく、筋道立てて、1㎡を10000cm ² に換算する思考の流れを大切に指導する。
図形	○直方体において、ある面と垂直な辺を選ぶ設問では、正答率が86.9%で、県や市の平均を10ポイント以上上回った。 ●ひし形を対角線で分けた図形が二等辺三角形になる理由を記述する問題は、正答率が33.3%で市の平均を1.7ポイント下回った。	・図の復習問題に取り組む機会を多く設ける。 ・根拠を明らかにしながら、筋道立てて記述することが苦手な児童が多いので、様々な学習においてこの点を意図的に指導していく。とりわけ、図形に関しては、図形と言葉との連関を図りながら説明ができるようにしていく。
数量関係	○2つのグラフを比べ発言が正しくないわけを記述する設問の正答率が33.3%であったが、これは市の平均を5.9%上回っている。 ●折れ線グラフから、イネの草丈の伸びを求め比較する問題では、正答率が23.8%であった。県の平均より5.3ポイント、市の平均より6.3ポイント下回る結果となった。	・伴って変わる2つの量の関係を式に表すような思考を伴う学習に対しては、思考力を要する教科書巻末の問題やトピック教材を取り上げて児童に挑戦させるようにしたい。 ・グラフから適正かつ妥当な考察を導き出すことは大切な能力であるという認識から、授業において、その思考の流れをつくることを意図的に仕組み、補充指導を加えていく。

宇都宮市立御幸が原小学校 第5学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	物質・エネルギー	51.6	53.7	52.5
	生命・地球	64.1	64.9	64.3
観点	科学的な思考・表現	51.8	54.7	53.4
	観察・実験の技能	52.9	50.8	50.3
	自然事象についての知識・理解	64.8	65.7	64.9



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
物質・エネルギー	●領域の正答率は51.6%で県平均より0.9ポイント、市平均より2.1ポイント低い。 ○金属は熱した部分から順に温まることや電池の数やつなぎ方とモーターの回り方を関係付けることを問う問題の正答率は県の平均を10ポイント程度高かった。 ●バイメタルを温めたときの様子を推測する問題、空気は熱せられると上方へ移動することを問う問題、水は熱せられると上方へ移動することを問う問題の正答率は、市や県の平均値を10ポイント程度下回った。	・熱交換やそれに伴う現象に対する理解が不十分な児童がいるので、意図的に指導をし補充していく。 ・物質・エネルギーの領域を指導するに当たっては、予想を立てて実験を行い、結果をまとめ、考察をするという一連の思考の流れを大切に、各々を重点的に指導することで、科学的な思考力を高めていくようにする。
生命・地球	○領域の正答率は64.1%でほぼ県平均・市平均に近い正答率であった。 ○金魚鉢に入っていた水が減った理由を説明する問題の正答率は82.4%で、市や県の平均を10ポイント程度上回った。 ●腕を曲げたときの筋肉の様子を問う問題、人の背中や手が丸く曲げられる理由を説明する問題の正答率は、それぞれ57.6%、51.8%で、これらは県や市の平均を10ポイント以上下回っている。	・実験などの実際の活動を重視するとともに、インターネットやDVDなどの映像資料を活用して、具体的なイメージが持てるようにし、知識の定着を図っていくようにする。 ・人の背中や手が丸く曲げられることを説明する問題ができなかった児童が多かったことを受け、出題の意味を十分に理解した上で、問題に合う回答を、学んだ知識を生かして、相手に分かるように説明ができるよう意図的に指導していく。

宇都宮市立御幸が原小学校 第5学年児童質問紙調査

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○アンケート全77項目の内、肯定的回答の割合が90%を超えた内容は、「家の人と学校でのできごとについて話をしている。」、「毎日、朝食を食べている。」、「勉強していて、『不思議だな』『なぜだろう』と覚えることがある。」、「学校の宿題は、自分のためになっている。」、「学習して身に付けたことは、将来の仕事や生活の中で役に立つと思う。」、「人と話すことは楽しい。」、「友達と話し合うとき、友達の話や意見を最後まで聞くことができる。」、「家で、学校の宿題をしている。」、「次の教科などの学習は、将来のために大切だと思いますか。国語・社会・算数」と10項目(3教科)あった。

●一方、肯定的回答の割合が50%を切った項目は、「本やインターネットなどを利用して、勉強に関する情報を得ている。」(45.9%)、「友達の前で自分の考えや意見を発表することは得意である。」(38.8%)、「家で、学校の授業の予習をしている。」(49.4%)の3項目あった。

○県の平均値との比較において、肯定的回答の割合が高かった項目(90%以上を除く)は、「難しい問題にであうと、よりやる気がでる。」(+5.4ポイント)、「自分の行動や発言に自信をもっている。」(+5.1ポイント)、「授業では、クラスの友達との間で話し合う活動をよく行っている。」(+5.0ポイント)、「学級活動の時間に、友達同士で話し合ってクラスのきまりなどを決めていくと思う。」(+6.0ポイント)の4項目であった。

●県の平均値との比較において、肯定的回答の割合が8ポイント以上低かった項目(50%以下を除く)は、「疑問や不思議に思うことは、分かるまで調べたい。」(-8.4ポイント)、「授業を集中して受けている。」(-8.3ポイント)、「国語の授業で自分の考えを書くと、考えの理由が分かるように気を付けて書いている。」(-9.8ポイント)の3項目であった。

今後の指導の重点

- ・学校においても、総合的な学習の時間などに本やインターネットを利用して一人調べのできる時間を設け、また、発表の機会をつくり調べる意欲・発表する意欲を養う。
- ・家庭と連携を図りながら、授業の予習・復習の習慣化を図れるように指導する。
- ・さまざまな学習場面で、自分の考えを確かな根拠をもとに、相手に分かるように説明できる深い考えを身に付けられるように指導する。